

第46回関東地区公立中学校  
修学旅行研究発表会  
研究紀要

付録：修学旅行実施に関する調査集計結果の分析と考察



期 日：平成22年11月15日（月）  
会 場：前橋テルサ（前橋労働者総合福祉センター）

主 催

関東地区公立中学校修学旅行委員会  
財団法人 全国修学旅行研究協会

後 援

群馬県・茨城県・栃木県・埼玉県・千葉県・前橋市・さいたま市・千葉市 各教育委員会  
群馬県・茨城県・栃木県・埼玉県・千葉県・さいたま市・千葉市 各中学校長会

## 研究発表会の趣旨

修学旅行は近年、訪問地や体験の幅が広がり、その形態が多様になってきました。しかし、望ましい集団活動、個人的資質の向上、社会性の涵養、自主性・実践性の育成、人間としての生き方への志向といった“修学旅行の価値”は変わっていません。まさにこうした価値を追究していくことが修学旅行の目的なのです。その意味で、何を体験させるかということ以上に、体験によって何を学ばせるかが大切なのです。

現在、学校教育の中心課題となっている『生きる力』とは、「生涯において生起される課題を自ら解決できる力」と考えます。『生きる力』をはぐくむために教科、道徳、総合的な学習の時間、そして特別活動があります。教科は学問をとおして、道徳は生き方・あり方から、総合学習は身の回りを取り巻く課題から、特別活動は自治的活動や集団づくりといったように、それぞれの領域を生かした課題をもとに追究していくことが求められています。

修学旅行についても、「生きる力」を育成する観点から、自治的・集団的活動をもとに、学校では経験できない出会い・ふれあい・発見を通して喜びや感動を味わい、“学びの創造”に取り組む必要があると思います。つまり学びの価値を与えていく意図的な学習計画があるべきです。

修学旅行は教育的行為であり、学習を中心に据えなければなりません。その学習をより魅力づけるのが子供の感性への働きかけです。「人間としての生き方について自覚を深め、これからの自己を一層活かす能力を養う」ために、修学旅行の果たす役割は今後ますます大きくなります。知識・技能を活用する学習と相まってより確かなものになります。

昨年度は、新型インフルエンザの発症に伴い各学校では修学旅行の実施に向けての対応で大変苦慮された事は記憶に新しいところです。そんな中、学校生活における修学旅行の大切さが改めて認識された感があります。社会全体に与える影響の大きさは計り知れないものです。

今日、各学校は修学旅行を実施するにあたり、新しい教育の趣旨をくみ取り、子どもたちの主体性を生かし、さらに教育効果をより高めるために関係者や関係機関との連携を図る中で、創意に満ちた取り組みをされていることと思います。

このような趣旨から研究発表会の主題に「感性をはぐくむ修学旅行の探究」を掲げ、各県教育委員会をはじめ、関係教育諸機関のご協力とご支援により、関東地区公立中学校修学旅行研究発表会を開催し、修学旅行の研究を深めることは大きな意義があると考えます。

## 目 次

1	研究発表会次第	1
2	あいさつ	
	関東地区公立中学校修学旅行委員会会長	生 方 徳 光 … 2
	財団法人 全国修学旅行研究協会理事長	中 西 朗 … 3
3	講演会	4
	演 題 「豊かな感性をはぐくむ修学旅行」	
	東京学芸大学名誉教授	児 島 邦 宏 先生
4	研究発表	7
	大会主題 『感性をはぐくむ修学旅行の探究』	
	発 表 「伝統と文化を探るテーマ学習」	
	前橋市立第五中学校教諭	瀬 戸 満
5	指導講評	25
	群馬県教育委員会義務教育課 指導主事	木 口 卓 哉 先生
6	研究発表のあゆみ	26
7	関東地区公立中学校修学旅行委員会報告	31
	研究委員長 沼田市立白沢中学校長	中 島 智 雄

付録：修学旅行の実施状況並びに「めざす修学旅行のための取組みについて」の調査集計結果の分析と考察

## 研究発表会次第

- 1 大会主題 「感性をはぐくむ修学旅行の探究」
- 2 日 程
  - (1) 受付 (12:45~13:00)
  - (2) 開会行事 (13:00~13:25)
    - ・ 開会のことば  
関東地区公立中学校修学旅行委員会運営委員長 土屋 力 三
    - ・ 主催者あいさつ  
関東地区公立中学校修学旅行委員会会長 生 方 徳 光  
財団法人全国修学旅行研究協会理事長 中 西 朗
    - ・ 来賓祝辞  
群馬県教育委員会教育長 福 島 金 夫 様  
前橋市教育委員会教育長 佐 藤 博 之 様
    - ・ 来賓及び指導者紹介
  - (3) 関修委活動報告 (13:25~13:40)  
関東地区公立中学校修学旅行委員会研究委員長 中 島 智 雄
  - (4) 講演会 (13:45~14:45)  
演題「豊かな感性をはぐくむ修学旅行」  
講師 東京学芸大学名誉教授 児 島 邦 宏 様
  - <休 憩> (14:50~15:05)
  - (5) 研究発表 (15:05~15:30)  
「伝統と文化を探るテーマ学習」  
前橋市立第五中学校教諭 瀬 戸 満
  - (6) 研究協議 (15:30~15:50)
  - (7) 指導講評 (15:50~16:00)  
群馬県教育委員会義務教育課指導主事 木 口 卓 哉 様
  - (8) 閉会行事 (16:00~16:10)
    - ・ 閉会のことば  
群馬県中学校長会修学旅行委員会事務局長 田 村 正 紀
    - ・ 諸連絡

## 研究発表会の開催にあたって

関東地区公立中学校修学旅行委員会  
会長 生方 徳 光  
(群馬県前橋市立東中学校長)

第46回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会が、多くの皆様のご尽力により、ここ前橋市で開催されますことを心からお喜び申し上げます。

昨年度の修学旅行は、各校とも「新型インフルエンザ」の対応に苦慮しました。その時の経験は、修学旅行に対する危機管理のあり方を見直すとともに対応へのノウハウを蓄積する良い機会になったのではないかと思います。今年度は、大きなトラブルもなく無事に修学旅行が終わったことは、各学校の校長先生や担当の先生方のご努力の賜であると感謝申し上げます。

さて、修学旅行は中学校3年間の学びの集大成です。生徒たちは学校や家庭、地域で学んだ事柄を修学旅行という体験学習を通して学校では体験できない出会い・ふれあい・発見を通して喜びや感動を味わいながら、今まで培ってきた知識を生きて働く知恵に変えていきます。修学旅行は個人や集団が学びの集大成をおこなう大変貴重な教育活動であります。

このような観点から、生徒一人ひとりの感性をはぐくむ修学旅行にするために、各学校で毎年積み重ねられている実践的研究とともに、各校の特色ある取り組みを互いに共有するための場の設定が重要になります。

本研究発表会は、各校の実践的な取り組みを互いに共有し、より良いものを目指す学びあいの場として、今まで重要な役割を果たしてきました。

本日の研究発表会の主題は、「感性をはぐくむ修学旅行の探究」です。この主題にそって前橋市立第五中学校が「伝統と文化を探るテーマ学習」という題で発表があります。そして、引き続き研究協議が行われます。発表して頂いた貴重な実践事例に学ぶとともに、参加者の皆様方からの活発なご意見交流が行われ、各校の今後の修学旅行の更なる充実発展が図られれば幸いです。発表をして頂く先生には、ご多忙の中準備をしていただき、大変ありがとうございます。

最後になりましたが、研究発表会の開催にあたり、ご指導・ご助言をいただきました群馬県教育委員会をはじめ前橋市教育委員会、群馬県中学校長会、運営に携わった財団法人全国修学旅行研究協会、その他ご支援ご協力を賜りました多くの方々にお礼を申し上げます。

## 修学旅行研究発表会の開催にあたって

財団法人全国修学旅行研究協会  
理事長 中西 朗

教育変革の流れの中で、第46回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会が開催されますことは、まことに意義深いものがあります。この研究発表会も、半世紀にわたって継続して開催され、修学旅行の発展に寄与してまいりました。この間、関東地区公立中学校修学旅行委員会のご尽力はもとより、各県の教育委員会・中学校長会、特に開催県の格段のご支援をいただいておりますことに心から御礼申し上げます。本年度は、群馬県及び前橋市に大変お世話になります。よろしく願い申し上げます。また、ご多忙の中、大勢の方々にご参会いただき感謝に耐えません。

修学旅行は、特別活動の学校行事の一環として大切なカリキュラムです。児島先生のお言葉をお借りすれば、『確かな学力は豊かな心と相俟ってこそ自立した人間が形成されるのでしよう。ですから、道徳や特別活動は、各教科の知的教育と並んで、自己教育力の育成を目指す学校教育の両輪を形成していることになります』まさに、修学旅行は、大切な「活用型の学習」の集大成といえましょう。

修学旅行によって、日頃の生活と異なる未知なる自然や人々の営みから生まれた歴史・文化等に触れ、学習の自己投影がなされます。それが「生きる力」として機能していきます。「生きる力」の育成は、究極において、個々の生徒の生き方への問いかけなのでしょう。それが、集団活動を通して自己を捉える生きることの意味づけが、心の感動を伴ってなされることが重要となります。

本大会の主題であります「感性をはぐくむ修学旅行の探究」は、このような意味合いの中で生まれたものです。その実践事例として前橋市立第五中学校の「伝統と文化を探るテーマ学習」の発表は、まさに、『感性をはぐくむ修学旅行』の実践化です。その土地の伝統・文化は、風土とともに聞こえてくる人々のつぶやきです。その声に接した時、そこに共感・共鳴が生まれ、大きな感動が渦巻き、その感動が未来に生き続けます。体験が感動に高められたとき、感性がはぐくまれます。今後教育において、修学旅行の新しい価値軸として期待されるものでしょう。

本年度は、東京学芸大学名誉教授児島邦宏先生のお話を聞くことができました。

「いま」そして「これから」激流に立つ子どもたちに、学校は何をなすべきかをご教授いただきます。日ごろ、私は児島先生に教えを仰いでいますが、このたびも、これからの特別活動の在り方を示してください。うれしい限りです。

最後になりましたが、研究発表校の瀬戸 満先生、ご祝辞をいただきます群馬県教育委員会教育長 福島金夫様、前橋市教育委員会教育長 佐藤博之様、指導講評をいただきます群馬県教育委員会義務教育課指導主事 木口卓哉様に心から御礼申し上げます。

## < 講演会 >

### 『豊かな感性をはぐくむ修学旅行』

東京学芸大学名誉教授 児島 邦宏 先生

修学旅行のねらい～生徒にどんな力を育むか

#### (1) 遠足・修学旅行のねらい

「郊外の豊かな自然や文化に触れる体験を与え、学校における学習活動を充実発展させる。また、郊外における集団活動を通して、教師と児童生徒、児童生徒相互のふれあいを深め、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積むことによって、望ましい成長を図る。」

教師と児童生徒および児童生徒相互の人間的なふれあいを経験し、人間としての生き方について自覚を深めるとともに、生涯の楽しい思い出を作ることができる。

我が国の文化・経済・産業・政治などの重要地を直接見聞したり、大自然の美しさに接したりすることによって、各教科そのほかにおける学習を拡充することができ、広い知見と豊かな情操を育成する。

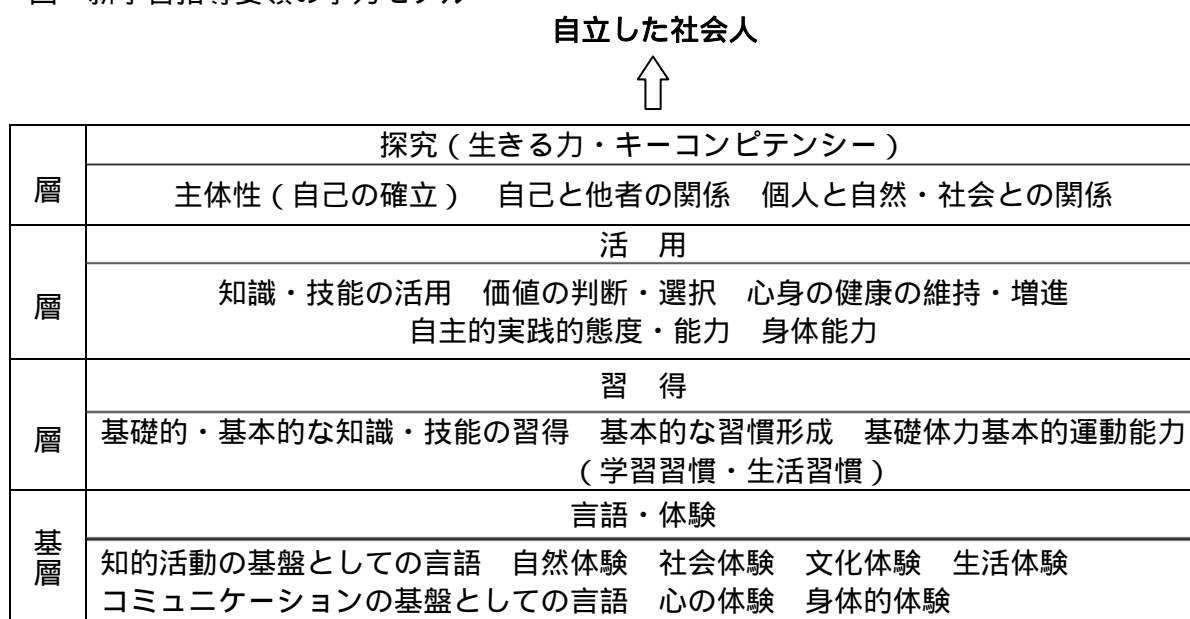
楽しい豊かな集団生活を通して、健康や安全、集団活動の決まり、公衆道徳などについて望ましい体験を得る。

#### (2) 学習モデルと修学旅行

習得 活用 探究

知の総合、活用、実践の過程としての修学旅行 仕上げ、到達点

図 新学習指導要領の学力モデル



### 探究（生きる力）の過程と修学旅行

- ・自己を知り、自己を確立する（しっかりとした自分、生きざま、将来設計など）
- ・他者（友人、地域の人、他人）との関係とふれあい・交流（共に生きる）
- ・自然・文化・産業・伝統・ものづくりとの出会いと保護・保全
- ・社会とのふれあいと地域交流、地域貢献、郷土愛（社会を見る目・自己を見る目）
- ・学校教育を総合・横断し、現実の社会に挑戦し、自立の基礎を養う

#### 教科横断・総合としての修学旅行

社会的挑戦(我が町を売り込む：岩手、和田町)

学んだことを生かしてみる

### 指導の方法（学習の方法）

#### (1) 体験的学習

感覚的認識と学ぶ意欲（体で知る）

知の実践、活用と体験

知を生かす、学んだことを確かめる、学んだことの力を実感する

共に学ぶ、共に生きる（知恵を出しあう、相談する）

### 指導の過程

#### (1) 事前指導

計画し、下調べをし、課題をもって参加する

#### (2) 体験活動（事中）

見る、聞く、味合う、匂いを嗅ぐ、触れる、考える

#### (3) 事後指導

体験したことの「価値づけ、意味づけ」

発表会による学びの交換（特殊体験の一般化）

### 課題

#### (1) ねらいを鋭く

多様なねらいとあいまいさ

#### (2) 生活をつくる・自立の目

2泊3日と3泊4日の差

#### (3) 事後の価値付け

#### (4) 社会に生きる（修学旅行とキャリア形成）

その後の生き方として何を学ぶか（終わり始まり）



## <研究発表>

# 伝統と文化を探るテーマ学習

前橋市立第五中学校教諭 瀬戸 満

## I はじめに

本地域は、前橋市市街地の南東に位置し、国史跡 天川二子山古墳をはじめ、古代の遺跡が多数発見されたことから、古くから栄えた土地柄である。現在は閑静な住宅地と商店街が開け、緑多く落ち着いた環境を維持している。

現在の生徒数は585名（1年191名、2年216名、3年179名）、学級数は18クラス（普通学級16、特別支援学級2）で、前橋では大規模校に属する。本校は53年に及ぶ歴史をもち、「礼儀正しく鍛え合う五中」を信条に、生徒は落ち着いて、学習や部活動に積極的に取り組んでいる。特色ある教育活動として、「開かれた学校づくり」「ボランティア活動の充実」「文武両道を目指す部活動」を掲げ、今年度は特に、ボランティア活動に力を入れ、地域の行事に積極的に参加したり、生徒会を中心に地域・学校美化に努めたりしている。

## II テーマ設定の理由

改正教育基本法では「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」と規定され、「伝統や文化に関する教育の充実」が示された。これを受け、新学習指導要領で、道徳の時間を要として各教科、総合的な学習の時間及び特別活動など学校教育活動全体を通じて行うものであるとしている。本校では、この「伝統や文化に関する教育」の全体計画、指導計画等の作成はまだなされていないが、一つの試みとして、奈良・京都への修学旅行を取り上げようと考えた。また、修学旅行でより豊かな体験の学習活動がなされれば、実感の伴った伝統や文化の理解を深めることができると考えた。本校では、修学旅行の学習を総合的な学習の時間に組み込んで行ってきた。今年度は、修学旅行でテーマ学習を実施することにより、課題解決的な学習を行い、総合的な学習の時間との関連を深めることにした。

## III 修学旅行までの取り組み

### 1 赤城林間学校（第1学年）

(1) 期 日 平成20年5月19日（月）～21日（水）

(2) 宿泊地 赤城少年自然の家

(3) 日 程

- ・1日目……登山（地藏岳） 入校式 カッター実習 キャンプファイヤー
- ・2日目……カッター実習 ウォークラリー 室内レクリエーション
- ・3日目……カッター実習 退校式

(4) 成果と課題

1年の段階で、赤城山での集団宿泊生活を通して、協同、友愛、規律、自主自律、奉仕等の精神、団結力を養う目的で行っている。修学旅行につながる成果としては、まずクラスや学年としてのまとまりが高まったこと、また集団行動の

意義や重要性を理解したことなどが挙げられる。特に、カッターや登山等の活動を通して、同じ目的を共有して頑張ることの楽しさや充実感を味わえたことが生徒にとっての収穫となった。



カッター実習



赤城山・地蔵岳への登山

## 2 東京遠足 (第2学年)

- (1) 期 日 平成 21 年 6 月 10 日
- (2) 場 所 東京 (山手線内およびその周辺)
- (3) テーマ 「テーマ別東京横断遠足」  
文化 情報 歴史 スポーツ 政治 交通

	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
2組 4班		長谷川町子美術館	浅草寺		国立科学博物館		
4組 3班			浅草周辺	貨幣博物館	東京駅	科学技術博物館	
4組 4班			品川水族館		日本サッカーミュージアム	上野駅	国立科学博物館
1組 4班		江戸東京博物館		東京大空襲戦災資料センター		東京駅	

特色のある 行動計画例

### (4) 成果と課題

東京遠足は修学旅行に直接つながる行事と位置づけ、課題解決的な学習活動を組んで行った。・課題設定の力 (見学場所の選定・目的・学習内容 等) ・問題解決能力 (調べ学習・計画立案・直接体験 等) ・表現力や発表力 (学習成果のまとめや発表 等) の流れで実施した。具体的には、計画の立案にあたっては、各班ごとに、文化、情報、歴史、スポーツ、政治、交通のテーマを提示し、その中からテーマを決めさせ、

テーマに基づく見学地を考えさせた。上記の行動計画例のように、特色のある計画を立てた班が見られた。

班行動の通して、生徒同士の理解と協力、自主性を育てることもねらいの一つとし、全体的にはねらいは達成できたが、班行動の決まりを守ることや公共のマナーに関して、反省・課題となった面も見られた。

### 東京遠足を通してわかったこと

テーマ：「東京の文化」

生徒A 東京遠足で課題を解決してくことで、東京から始まった文化、そして、過去と未来をつないでいく文化がわかった。東京から始まった文化はたくさんあり、その文化を未来まで守り続けるのが、私たちだと思う。そして、過去から始まった文化が、今でも存在する訳は、東京が大都会だから、そして現在たくさんの人々が文化を必死に守り続けているからだと思う。東京は昔から発達していき、今日も、そして未来までも発達していく。東京の進化は未来と一緒に進んでいくのがわかった。

生徒B TBS……このテレビ放送が始まってから現在までにテレビを観る人がどうやったら観てくれるか、どうやったら楽しんでくれるかということ工夫を工夫を重ねてきているんだということがわかった。また商号も何度も変わり、そのたびに新たな施設が作られ、当時から現在まで本当にみんなに観続けられているということがわかった。



東京都庁での集合の様子



江戸東京博物館での班行動

#### IV 修学旅行事前の取り組み

##### 1 事前学習の計画

月	時間	主な学習内容
2年1月	総合2	<b>ガイダンス</b> (ねらい、計画、内容等)
		↓
2月	総合5	<b>調べ学習 奈良</b> (個人学習)
		↓
		<b>調べ学習 京都</b> (個人学習)
		↓
3月	総合2	<b>テーマの設定・設定の理由</b> (個人学習)
		↓
	総合2	<b>テーマに基づくコース作り</b>
		↓
3年4月	総合2	<b>オリエンテーション</b> (計画、テーマ学習について) スローガン検討
		↓
	学活1	<b>班決め・班テーマの設定</b>
		↓
	学活1	クラス別行動の話し合い
		↓
5月	総合5	<b>京都班別行動の計画づくり</b>
		↓
	総合4	<b>奈良班別行動の計画づくり</b>
		↓
	総合2	<b>班別行動見直し</b>
		↓
	学活2	部屋割り・列車の座席決め・バスの座席決め
		↓
6月	総合4	しおりの作製・読み合わせ
		↓
	学活2	事前指導
		↓
23~25		修学旅行

※太字はテーマ学習との関連

## 2 テーマの設定

テーマの設定に関しては、以下の点に留意させ、テーマ例（下記）を参考にして、まず個人でテーマを設定させた。

- 奈良と京都の班別行動は、テーマを設定し、それに基づいた計画を立てる。
- 奈良と京都の班別行動に共通するテーマか、京都の班別行動のテーマを設定する。
- テーマは、各自の興味・関心に基づき、実際に現地に行き、見たり、体験したりすることにより、明らかに出来る課題を設定するようにする。
- テーマ設定（事前）→修学旅行（当日）→まとめ・新聞づくり等（事後）の流れの学習を行う。

### テーマ例

項目	テーマ例
国語	平安時代の古典文学
社会	古代を訪ねて 平安時代 室町時代 桃山時代 京の名水をさがそう あこがれの道を歩こう 京都の名園（庭園）（枯山水、池泉回遊式庭園、浄土式庭園、鑑賞式） 伝統産業（*体験学習）
美術	寺社建築 仏像・彫刻
生活・文化	町並み 町屋 茶道 工芸・陶芸（*体験学習） 繊維・染織（*体験学習） 座禅・法話 伝統芸能 写経（*体験学習） 菓子（*体験学習）

### 生徒の立てた修学旅行テーマ(個人)

項目	社会科・歴史（国語・古典）
テーマ	平安時代・古典
課題	物語の情景を思いながら、そのすばらしさを味わおう。
設定の理由	

- ・平安時代に活躍した歴史上の有名人物が好きで、その人物ゆかりの地について調べたいと思ったから。
- ・平安時代の歴史や文化が好きだし、平安時代は「かな文字」など、日本の文化のもととなった時代だから。
- ・「源氏物語」「平家物語」など、古典が好きだから。

### テーマに基づく見学地

- ・野宮神社（紫式部「源氏物語」）
- ・祇王寺（平清盛「平家物語」）
- ・平等院鳳凰堂（藤原頼通）
- ・晴明神社（安倍晴明）
- ・大徳寺（清少納言「枕草子」）
- ・伏見稲荷大社（清少納言「枕草子」）

### 3 テーマによる班決め

従来本校では、グループ決めを男女別に好きな者同士で3人組を作らせ、男女の組み合わせはくじで行い、6人組を作るというのが慣例であった。

それを今回は、まず個人のテーマを決めさせ、同一テーマを持つ者同士の班を作ることにした。各クラスの担任が、個人テーマから組み合わせを考え、グルーピングを行った。同一班が全員同じテーマにするには難しい班もでてくるので、そういった場合は、テーマのカテゴリーが同じ者を加えるようにした。

従来は、班を作ってから、班のテーマを決めさせていたため、そのテーマが班員全員の共通のものとはならないことが生じていたが、今回テーマによって班決めをしたので、班のテーマを共有しやすくなった。また、班決めは、生徒の人間関係が強く影響するので、混乱が予想されたが、担任主導のメンバー決めは、微妙な人間関係も考慮しながら行ったので、混乱は生じなかった。

### 4 班テーマの設定

テーマによる班ができたところで、各班でテーマについての話し合いをもたせ、決定させた。（資料1参照）内訳は、

- ・時代（平安・桃山・江戸等） 4
- ・庭園 4
- ・寺社建築・彫刻 11
- ・絵画・陶芸 1
- ・食文化・菓子 4
- ・伝統工芸 2
- ・町並み 1
- ・京都と群馬の文化比較 2 であった。

資料1 修学旅行班別テーマ一覧

組	班	テーマ	課題
1組	1	寺社建築・仏像彫刻	寺社・仏像を見て、自分の感想をもち、すばらしさを味わう。
	2	絵画・陶芸	実物を実際に見て、自分の感想をもち、すばらしさを味わいながら学ぶ。
	3	庭園	様々な種類の庭園を觀賞し、年代ごとの特徴をつかみ、また日本古来の芸術のすばらしさを味わう。
	4	建築・庭園	寺社の建築、庭園を見て、その時代によってどのような違いがあるか調べる。
	5	平安・桃山・江戸の歴史	歴史や古典にでてきたものや人物などに関わった寺を見てそのすばらしさを味わう。
	6	平安・安土桃山時代	平安・安土桃山時代の建物や文化を見て、そのすばらしさを味わおう。
2組	1	古代を訪ねて	歴史のすばらしさを感じ、その偉大さを味わう。
	2	庭園	庭園を巡って歴史を知ろう。
	3	見よ！作ろう！京都の文化	群馬と京都の文化の違いを感じる。
	4	お菓子	お菓子から京都・奈良の文化を知ろう。
	5	建築・仏像	建築物、仏像のすばらしさを味わう。
	6	仏像・和菓子	仏像を見たり和菓子を作ったりして京都・奈良を知る。
3組	1	菓子	京都の伝統的な京菓子を実際に作ってみて、京都のすばらしさを知る。
	2	伝統工芸品	京都の伝統工芸品を体験し、その文化に触れる。
	3	仏像・寺社建築・彫刻	古くからの仏像、彫刻を実際に見て、その時代の日本文化のすばらしさを深く理解したい。
	4	世界遺産	なぜ、世界遺産に選ばれたのか。
	5	寺社巡り	古都の人々が感じた美しさを味わう。
	6	町並みと寺社巡り	奈良・京都の町並みを見て昔の文化や生活にふれてみる。
4組	1	仏像・彫刻・寺社建築	多くの仏像や寺社建築を見て、その歴史を学ぶ。
	2	寺社建築・仏像・彫刻	京都・奈良の独特な仏像・寺社を見学し、その特徴を知る。
	3	京都の名園	色々な名園を巡り、一つ一つの特徴を見つける。
	4	昔の建築と昔の人の生活	伝統的建築物や工芸品などを調べてくる。
	5	京都の名園	昔の庭園の模様について調べる。
	6	菓子・伝統産業	菓子を実際に作り、京都の食文化を味わう。
5組	1	庭園と寺の調和	庭園と寺を実際に見て、建物のバランスや庭園を比較し美を味わう。
	2	京都と群馬の文化比較	歩いた道などをオリジナルのパンフレットなどにまとめる。
	3	食文化と伝統文化	京都奈良の名物の作り方をまとめ、伝統文化の他県との違いをまとめる。
	4	仏像・彫刻	古都にある仏像を比較し、その時代背景や特徴の違いを調
	5	建物と仏像	建物や仏像の特徴を知ろう。
	6	桃山時代の文化の特徴	桃山時代のお寺をまわり、桃山時代の特徴を明らかにする。

## 5 班別行動計画と見学地調べ

奈良・京都の班別行動を検討させるにあたり、班のテーマに関わる見学地を2, 3箇所組み込むようにさせた。特色ある行動計画は以下の通りである。

行動計画が決定してから、見学地調べを進めた。「関西の旅」、「るるぶ」、図書室の本、インターネット等を使って自分たちの見学先について調べてまとめさせた。社会科では授業の中でより詳しいテーマに沿った調べ学習を行った。

京都班別行動計画	※太字はテーマに関する見学地
1組6班 三十三間堂…清水寺…八坂神社…錦市場… <b>本能寺</b> … <b>清明神社</b> …二条城	
3組1班 三十三間堂… <b>八つ橋と刺繍館</b> …二条城…清水寺	
3組2班 南禅寺…清水寺… <b>京扇堂</b> …京都タワー	
4組4班 金閣寺…北野天満宮…清水寺…京都駅… <b>あかね屋</b>	
4組6班 三十三間堂…清水寺… <b>井筒八ッ橋本舗</b> …京都駅	
5組2班 三十三間堂… <b>祇園</b> …銀閣寺・ <b>哲学の道</b> …金閣寺… <b>二条城</b> ・ <b>近くの町並み</b>	
5組3班 二条城… <b>西陣織会館</b> …清水寺…三十三間堂…京都駅	



社会科での調べ学習の様子



実行委員会による集会

## V 修学旅行での取り組み

1 期 日 平成22年6月23日(水)～6月25日(金)

2 宿泊地 旅館銀閣(2泊) 京都市下京区烏丸通七条東入下ル



### 3 行程

	6月23日(水)		6月24日(木)		6月25日(金)
5:05	前橋駅(出発式)	6:00	起床	6:00	起床
	高崎駅(新幹線)	7:00	朝食	7:00	朝食
		8:30	班別行動開始	8:00	宿泊宿発
10:08	京都駅				クラス別行動
11:30	奈良公園、法隆寺、 平城京跡の3方面へ バスで		京都班別行動	12:00	昼食
	奈良班別行動			13:59	京都駅
18:00	宿泊宿着(銀閣)	17:00	宿泊宿着(銀閣)	16:20	東京駅
19:00	夕食	17:30	夕食	18:03	高崎駅
		18:30	体験学習出発	18:33	前橋駅(解散式)
			河村能舞台		
20:00	消灯	22:30	消灯	18:55	解散

#### 4 1日目(奈良・班別行動)

奈良の班別行動は、京都到着後、法隆寺方面11班、平城京跡方面13班、奈良公園方面6班に分かれてバスで移動した。その後は、班の計画通りに行動した。今年は、「平城遷都1300年祭」ということで、平城京跡会場に行った班は19班/30班中にもものぼった。テーマ別学習に関しては、奈良では、「寺社建築・彫刻」「庭園」などをテーマとした班が、計画に沿った学習を行った。



法隆寺



東大寺仁王像



遣唐使船の前で 平城京跡会場



第一次大極殿の前で 平城京跡会場

### 5 2日目（京都・班別行動）

8時15分から17時まで、京都で一日班別行動を行った。移動は主にバス、電車で、タクシーは使わせていない。京都の班別行動では、テーマに関する見学地を入れており、体験学習を組み込んだ班も多かった。ほとんどの班が計画通り、行動し、集合時間には全班遅れずに戻ってきた。



京都班別行動開始



八ッ橋作り 井筒八ッ橋本舗



清水焼絵付け あかね屋



西陣織体験 西陣織会館

2日目の夜は、全体の体験学習として、能楽講座（河村能舞台）に出かけた。本校では、4年前から、体験学習として、この能楽講座を取り入れている。能についての説明、「高砂」を全員で歌う練習、楽器の紹介、代表者による歩き方、最後に実際の能を見学した。日本の伝統芸能に触れる貴重な体験となった。



能の体験 河村能舞台



#### 6 3日目（京都・クラス別行動）

3日目はクラス別行動で、以下の見学地をバスで移動した。

- 1組.....宇治平等院、伏見稲荷
- 2組・5組.....八つ橋作り体験、清水寺
- 3組.....金閣、北野天満宮、竜安寺
- 4組.....保津川下り、嵐山散策



1組 平等院



1組 伏見稲荷





2・5組 ハッ橋作り体験



2・5組 清水寺



3組 北野天満宮



4組 保津川下り

### 修学旅行事後の取り組み

#### 1 教科での取り組み

##### (1) 国語(短歌・新聞)

国語の授業を使い、修学旅行の思い出を短歌で表現させた。また、書くことの指導で「新聞作り」をさせた。

##### (2) 英語(英作文)

英語の授業では、修学旅行の中から一つのテーマを取り上げ、英作文を行った。

#### 2 新聞作り

国語の授業で「新聞作り」の書き方の指導を行い、総合の時間も使い、新聞作りに当てた。テーマ、テーマ設定の理由、事前学習の内容、実際の見学・体験の内容、感じたこと・考えたことを内容にし、その他として短歌や英作文を載せてもよいこととした。

梅雨の中かがやきはなつ奈良京都歩いてみれば古き街並み

清水の舞台に出でし美しき月に我が身の思いをよせて

京都奈良歴史を学ぶ古都の旅梅雨とは思えぬ青空の下で

清水の舞台からのてく近代のタワーそびえる古都京都

東福寺緑生い茂る庭園の秋の紅葉も美しきかも

汗ぬぐい日差しの日曇りも気にならずみんなで歩いた仁和寺の庭

あかね屋で清水焼を体験し学んできたよ古都の文化

市川から何気なく見る京都町 体で感じる音の香り

# My School Trip

Class - No. ■ Name ■

We went to Kyoto on a school trip in June.

The purpose of the trip was to learn about Kyoto's culture and history. There were a lot of people in Kyoto.

I experienced Noh. The noh was done from the Muromachi era till the kamakura era.

It has a history of about 600 years. It is difficult to learn the noh. When I experienced noh, I was very nervous.

I had a good time. We must hand down this good culture to many people. I learned a lot from this trip.

I want to visit Kyoto again.



英語で作った英作文

Class: 3-1 No. [redacted] Name: [redacted]

## My School Trip

We went to Kyoto on a school trip in June.

My favorite building was Byodoin.

It was built by Fujiwara Yorimichi in 1052.

It was wonderful!

Byodoin has two phoenixes. They are on the roof.

They were made by the imagination of people.

They were bigger than I had expected.

I went there to learn about Heian era.

I couldn't see the inside of the Phoenix Hall.

But the Japanese garden was very beautiful in Byodoin.

I want to visit Kyoto again.

And I want to study Japanese history hard.

I like Kyoto!



英語で作った英作文



# 見よう!作ろう!京都の文化!!

～群馬と京都の文化の違いを感じる～

## 京都・奈良について

**京都** ..... 794年の平安京遷都以来、1868(明治元年)まで、皇室の所在地で、首都が東京に移るまでは、千年以上も皇居がおかれた。「千年の都」と言われるように、古い歴史と伝統をもち、歴史的な文化遺産を多く残している。

**奈良** ..... 平城京(710年)がおかれ、74年間奈良時代の都であり、その後、東大寺、興福寺などの門前町として栄え、近畿地方のほぼ中心にあり昔は国中とも呼ばれていた。

## テーマ設定の理由

古都と呼ばれ、千年以上の歴史や文化が残る京都・奈良。そんな、日本文化の本拠地と古風漂々門並を、現代社会と比べ、成長の軌跡を、言聞べてみたいと思いました。

# 古き 良き 旅

## 京都と 奈良

### 法隆寺の見学

志半ばで崩御した用明天皇の遺志を継ぎ、推古天皇と聖徳太子が創建。法隆寺の象徴でもある「五重塔」は、高さ約25m、基壇上よりで、わか国最古の五重塔として知られている。

### 法隆寺の見学

世界最古の木造建築で有名な法隆寺は、思いどおりの古風あふれる寺だった。五重塔などは、法隆寺に入る前に見えるくらいの大サイズで、ものすごい迫力があった。夢殿は現存最古の八角四層、四つの扉から聖徳太子の等身像と伝わる救世観音を安置している。八角四層という形は初めて見た。

### 東大寺の見学

東大寺は、聖武天皇が幼くして亡くなった基親王を弔うために建立した金鐘寺を起源とする。平城京の東の大寺と呼ばれる東大寺には、像高19mの大仏が愛される。奈良のシンボルである。大仏は、木造建築である。



大仏様  
奈良のシンボルである。大東大寺は世界最大級の木造建築である。



### 三十三間堂の見学

東大寺の金堂に行くためには、まず南大門を通過しなければならない。日本最大級の門と呼ばれる南大門には、社会の時間に習った「金剛力士像」を見ることができた。木造の塔とは思えないほどの迫力で、阿形と吽形が力強い目で睨んでいる様子が、度々には驚かされた。初めに鹿を祀る鹿せんべいを買った。東大寺の中心を導く大仏も、思ったとおり、大さかた、昔の人達は、すごい技術を持っていたんだと思う。

### 三十三間堂の見学

国宝三十三間堂の名の由来は、南北に25mもある長大な御堂内の柱の間数が三十三あることにちなんでいる。本堂西の板縁は、江戸期に通し矢が行われたところ。今でも矢傷が庇柱に残っている。千体千手観音像は、一体一体の顔立ちや髪文が異なり、自分の探している人の面影に、と合えると云われる。

### 三十三間堂の見学

南北に25m、幅22mの長く大きな木造建築である三十三間堂は、写真で見ると、より小ぶる。世間大きいと感じた。千体千手観音像は、合計100体の観音像様が金色に輝いて、本当に美しい。何本もある手は、とも器用に見える。



三十三間堂  
堂の西縁の南端から、北端まで、矢を射通す競技。江戸時代にも行われていた。矢を射通す競技。江戸時代にも行われていた。通生まれ、近くで見ると、ものすごく長く感じました。

### 清水寺の見学

大同2年、坂上田村麿呂の創建。今の本堂は徳川家光の再建したもの。舞台造りが有名である。39本の柱に支えられた舞台の高さは3m、舞台の下部は釘を一切使わない「地獄止り」で足場を組んだ。舞臺造りになっている。様ともみじの場所。寸法師の鬼州出てくるのもこの話。

### 清水寺の見学

清水寺は写真で見ると通り、舞台がどこも印象的だった。昔から思っていたことをする。清水の舞台から眺め、おぼろげに感じている。また、鉄で作られた弁慶の足跡などは、ものすごく重く、鉄の錫杖は持てない。舞臺造り、清水寺の名の由来、三知く、これ、細い糸が流れるようだった。舞臺からの景色は、本当に美しく感じた。



清水の舞台

### 感想

今回、初めての京都・奈良の旅は、たくさんのお寺などに見学することが出来た。貴重な能も見ることも出来た。古来から続く歴史と文化は、今日まで大切に築き上げてきたのだと思います。そんなにもたくさん、建造物を見れたのは、奇跡に近いと思います。この奇跡に近い建造物を、守っていくのは、私達です。これから、百年、いや、千年も守り抜くことが、私達の使命なのではないか。最後の思い出か、頂きました。

新聞の作品例





### 3 発表会

個人で作成した「新聞」をもとに、修学旅行のグループで発表会を開いた。内容は、テーマ、テーマ設定の理由、事前学習で取り組んだこと、見学・体験内容、まとめの項目とした。発表方法はPCによるプレゼンテーションまたは模造紙発表とした。7つの会場に分け、各クラスの班を振り分けて行った。発表資料を作ることで、修学旅行のまとめにすると同時に、他のグループの発表を聞かせることにより、京都と奈良の伝統・文化について知識を広げることをねらいとした。



発表会の様子

### 成果と課題

「伝統と文化を探る」ために、テーマ学習を取り入れ、個人学習、グループ学習と学習を進めて修学旅行を実施した。これまでの本校での修学旅行と比べると、奈良・京都のもつ伝統や文化に目的をもって触れることができ、生徒個々の知識や考えが深められたと思う。

テーマ学習は、2年の「東京遠足」の時から行い、3年の「修学旅行」へとつなげたことにより、一貫性が生まれ、生徒の抵抗感もほとんどなく、スムーズに学習活動を行えた。

テーマ学習を事前、当日、事後の学習に分け、計画的に課題解決的な学習を行ってきた。そのため総合的な学習の時間との関連を深めることができたと考える。また、社会、国語、英語等の教科との関連も図ったが、計画の段階でしっかりと位置づける必要もある。

個人のテーマを班のテーマに生かすため、班決めは、好きな者同士の班ではなく、同種のテーマをもつ者同士を教師主導で決めたことにより、各個人のもった問題意識を継続させることができた。

課題として、各班でテーマを決めさせる段階で、もう少し課題を明確にさせる必要があったと思う。当日、事後の活動で班によっては学習の深まりがもう一步だったところが見られた。また教師側も共通理解ときめ細かな指導が必要である。

本校では、今後も修学旅行はテーマ学習を行い、総合的な学習の時間、さらには各教科の時間に計画を位置づけ、課題解決的な学習を行い、実り多い修学旅行にしていきたいと考えている。

## 関東地区公立中学校修学旅行委員会「研究発表会のあゆみ」

昭和41年以来、次の研究発表会を実施した。(敬称略)

回	年度	発表者	県・学校名	◎講師	研究内容・講演内容
1	昭和41	増渕 増雄	栃木・泉が丘中		・修学旅行のカリキュラムについて
		吉沢庸之進	千葉・柏中		・修学旅行の安全対策
		関根武之進	埼玉・黒浜中		・修学旅行の保健衛生について
2	42	高島 栄治	茨城・赤塚中		・修学旅行における事故の発生と対策
		根岸 幸治	群馬・昭和東中		・中学生の関西修学旅行の実施について
3	43	◎宮本 常一	武蔵野美術大学		講演 「日本の宿の変遷と修学旅行」
		荒幡 義輔	埼玉・本太中		・修学旅行の問題点の教育的思考
		◎小沼 常治	東京桜町高校		講演 「修学旅行における見学指導の在り方」
		君島 光夫	栃木・南犬飼中		・栃木県における修学旅行の実態
4	44	小泉 義	茨城・水戸五中		・安全実施のための運営と問題点
		高田 福松	埼玉・幸手中		・今後の修学旅行の在り方
		君島 光夫	栃木・南犬飼中		・生徒の手による修学旅行
		本間 康一	千葉・川間中		・特別活動としての学校管理上の問題点
5	45	現地研修会(京都)			
6	46	◎宮本 常一	武蔵野美術大学		講演 「修学旅行における望ましい観光の在り方」
		人見 芳正	栃木・箒根中		・小、中、高の関連の中で
		塩入安三郎	栃木・鹿沼西中		・わかくさ号で行こうとしたのに
		兵頭 ヤス	栃木・田沼東中		・新幹線を利用して
7	47	◎樋口 清之	國學院大学教授		講演 「歴史の真実」
		高橋 武司	千葉・柏中		・より効果的な修学旅行について
		高田 福松	埼玉・幸手中		・修学旅行引率費負担の現状と公費負担
8	48	◎佐藤 政次	茨城土浦日大高校		講演 「歴史と暦」
		高田 福松	埼玉・幸手中		・修学旅行の意義と目的
9	49	◎樋口 清之	國學院大学教授		講演 「旅と情報伝達 忍者の正体」
		菊地昌一郎	埼玉・加須北中		・オリエンテーリングを取り入れた修学旅行の実際
10	50	◎萩原 進	群馬郷土史家		講演 「群馬の風土と人」
		谷 正久	群馬・古巻中		・群馬県の修学旅行の現状
11	51	神坂 重光	茨城・古河二中		・本校における修学旅行の企画運営
		桑川 妙子	栃木・藤岡二中		・我が校の修学旅行の理論と実際 ー自主の気風を目指してー
12	52	坂田 次雄	千葉・松戸三中		・修学旅行における道德教育の実践
13	53	吉田 貫	茨城・水戸二中		・充実した修学旅行を目指して
		潮池 ルミ	埼玉・蕨東中		・修学旅行における観察学習を効果的にするために ーしおり作成と活用ー
14	54	生方実太郎	群馬・多那中		・集合教育を取り入れた修学旅行 ー生徒の主体的な取り組みー
		阿部 茂	群馬・新治中		・有意義な修学旅行にするために ー新幹線における車窓教育ー
15	55	苅部 正夫	栃木・久下田中		・有意義な修学旅行にするために ー奈良公園におけるグループ別活動ー
16	56	天田 和之	埼玉・岡部中		・東北修学旅行を実施して
		平田 幸平	埼玉・日進中		・総力を挙げての修学旅行の運営 ー大宮市立中学校長会ー
17	57	鈴木 勝	千葉・松戸四中		・東北へ修学旅行を実施して ー生徒のアンケートをもとにー
		小川 辰雄	千葉・吾妻中		・生徒の自主プランによる修学旅行
18	58	岡野 久	茨城・永山中		・連合による修学旅行の効果的なあり方を求めて
		青木 英	茨城・見川中		・生徒を生かし育てる修学旅行を目指して
19	59	◎高橋 哲夫	文部省教科調査官		講演 「修学旅行の今日的課題」
		福原 昭	群馬・中之条四中		・本郡修学旅行の現状と課題
		福本長治平	群馬・富士見中		・よりよい修学旅行の在り方を求めて



回	年度	発表者 県・学校名 ◎講師	研究内容・講演内容
20	60	◎高橋 哲夫 文部省教科調査官	講演 「自己教育力を育てる修学旅行」
		滝田 潔 栃木・横川中	・修学旅行を通じての自己啓発
21	60	松本 三郎 栃木・壬生中	・本県修学旅行の現状と課題
		片山 悦男 栃木・宝木中	・よりよい修学旅行の在り方を求めて
22	61	西川裕二郎 千葉・南行徳中	・みちのくの修学旅行
		村田小夜子 千葉・大洲中	・修学旅行を省みて
23	62	小日向勝美 埼玉・朝霞四中	・洛中班自由行動による見学活動
		川上 次雄 埼玉・大宮第二東中	・自由性を生かした修学旅行
24	63	◎高橋 哲夫 文部省教科調査官	講演 「学習指導要領改訂の方向について」
		宮本千代子 茨城・土浦第六中	・生徒自身の生徒の手による修学旅行
		川上 徹 茨城・日立豊浦中	・お互いを高め合うグループ別見学学習
		須藤 和彦 茨城・下館中	・生徒と教師がともに作り、触れ、感じる修学旅行
25	平成 元	<群馬県厚生年金会館>	
		◎高橋 哲夫 文部省教科調査官	講演 「新学習指導要領に於ける特別活動」
		後藤 秀夫 群馬・小野上中	・達成感の充実を目指した修学旅行
		真庭 幹郎 群馬・沼田西中	・体験的な班別学習を取り入れた修学旅行
26	2	<プラザインくろかみ>	
		◎渡辺 康隆 栃木県教委副主幹	講演 「研究成果の確認と今後の課題」
		松岡芙久子 栃木・小山美田中	・主体性を育てる班別行動
		大滝 伸一 栃木・宇都宮国本中	・あたらしい修学旅行の在り方を考える
27	3	<志津コミュニティセンター>	主題 「集団の中で自己を生かし協力しあう修学旅行をもとめて」
		◎渡部 邦雄 文部省教科調査官	講演 「集団の中に自己を生かす修学旅行」
		斎藤 正行 千葉・国分台西中	・リーダー養成を中心にすえた修学旅行
		山田 守人 千葉・柏五中	・班別にテーマをもつ修学旅行をつくるには
28	4	<埼玉会館>	主題 「教育性を高める修学旅行をめざして」
		井桁 孝 全修協修旅部長	提言「学校週五日制と修学旅行」
		大磯 宏 埼玉・所沢富岡中	・主体性を伸ばす班別行動
		藤川喜久男 埼玉・狭山東中	・体験学習を通して生き方を学ぶ東北修学旅行
29	5	<茨城県立青少年会館>	主題 「自主的に活動し、自ら学ぶ修学旅行」
		井桁 孝 全修協修旅部長	提言「新学力を培う修学旅行」
		秋田 昌彦 茨城・五所ヶ丘中	・生き方、在り方を学ぶ体験学習への援助指導の試み
		安島 一之 茨城・赤塚中	・体験を通して自らの生き方を考える修学旅行への取り組み
30	6	<プラザインくろかみ>	主題 「主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行」
		◎大槻 達也 文部省環境教育専門官	講演 「修学旅行における生徒の自主性」
		田上 富男 栃木・市貝中	・三年間を見通し自ら学びとる力の育成を目指す修学旅行
		古田 真隆 栃木・豊郷中	・研究テーマの設定を中心に生徒自らが計画した修学旅行の実践
31	7	<群馬県生涯学習センター>	主題 「主体性を育てる修学旅行」
		◎高橋 哲夫 文教大学教授	講演 「これからの学校教育と修学旅行」
		今成 保治 群馬・渋川北中	・集団の行動力を高める修学旅行
		田村 正紀 群馬・池田中	・主体性を育てる修学旅行の実践
32	8	<市原市勤労会館>	主題 「主体的に活動し、自ら学ぶ修学旅行」
		鈴木 俊幸 千葉・土中	・自主性を育む修学旅行の取り組み
		眞野 義幸 千葉・木刈中	・生徒の自主性を高める修学旅行のあり方

回	年度	発表者 県・学校名 ◎講師	研究内容・講演内容
33	9	<浦和市民会館>	主題 「主体性を伸ばし、行動力を高める修学旅行」
		◎森嶋 昭伸 文部省初中局教科調査官	講演「学校教育の転換と修学旅行への期待」
		田村 俊明 埼玉・鷺宮中	・生徒の知恵と発想を大事にし、主体的に生きる力を育む修学旅行
		金子 桂一 埼玉・鴻巣西中	・自主的活動をめざした修学旅行
34	10	<水戸市民会館>	主題 「主体的に活動し自ら学ぶ修学旅行」
		岩原美智枝 茨城・日立坂本中	・自ら学ぶ態度を育てる修学旅行をめざして
		坂入 秀範 茨城・下館北中	・主体的に活動し、実践力のある生徒を育てる修学旅行
35	11	<ブラザインくろかみ>	主題 「生きる力」をそだてる修学旅行
		高塩 博美 栃木・宮の原中	・体験学習を取り入れた修学旅行
		片川 慶子 栃木・毛野中	・自らの生き方を求める体験学習としての修学旅行
		三芝 直美 //	
36	12	<群馬県生涯学習センター>	主題 「生きる力」を育てる修学旅行
		◎森嶋 昭伸 文部省初中局教科調査官	講演「これからの学校教育と修学旅行」
		高橋 隆雄 群馬・新治中	・自主的に取り組む班別行動をめざした修学旅行
		埴田 栄一 群馬・長野原西中	・自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する修学旅行
		田中 充弘 //	－総合的な学習の時間を活用して－
37	13	<アミュゼ柏>	主題 「生きる力を育てる修学旅行」
		田淵 実 千葉・西志津中	・体験学習を取り入れた班別自主学习
		佐藤 卓 //	・自ら課題を発見し、自ら計画し、自ら検証する修学旅行を目指して －修学旅行を総合的な学習と位置づけての実践－
		池田 保 千葉・湖北台中	
		澁谷 善武 //	
		水戸 勝英 //	
38	14	<さいたま市民会館おおみや>	主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」
		渡辺 勝徳 埼玉・神泉中	・自ら学び自ら考える力の育成を目指す修学旅行
		関口 陽子 //	・総合的な学習の時間の視点から見た修学旅行
		梅津 稔 埼玉・南高麗中	
39	15	<ブラザイン・くろかみ>	主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」
		生田目 薫 栃木・国本中	・自己決定の場面を生かした修学旅行
		岩崎 昌美 //	・体験的な学習を通して見つめなおす自分とふるさと再発見の旅
		田中 弘子 栃木・栃木西中	
		佐藤 宏行 //	
40	16	<ホテルレイクビュー水戸>	主題 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」
		棚井 義広 茨城・水府中	・修学旅行における国際交流学習の一端
		古内 勝己 //	－「Why don't you come to Suifu?」郷土紹介のガイドブックを携えて－
		一色三千男 茨城・水戸第四中	・集団づくり及び総合的な学習の時間の場としての修学旅行の在り方 －中学校3か年の旅行・集団宿泊の行事の実践的取り組みを通して－
41	17	<水上館>	主題 「修学旅行における『学び』の創造」
		小淵 誠 群馬・薄根中	・見て、聞いて、体験して発見する私だけの京都・奈良
		須田 秀昭 //	－体験的な活動を通して成長する生徒を目指して－
		栗原 和彦 群馬・金島中	・生徒の自主的活動を育み伝統文化とふれあう修学旅行 －総合的な学習の時間における実践的取り組みを通して－
42	18	<流山市生涯学習センター>	主題 「修学旅行における『学び』の創造」
		根本 晃男 千葉・みつわ台中	・ふれあい、体験、大人から学ぶ山形の旅
		平野 正春 //	－3年間を見通したキャリア教育を核として－
		村山 義則 千葉・南部中	・日本文化探究をととした生徒の向上
43	19	<さいたま市民会館おおみや>	主題 「子どもの未来を拓く修学旅行の役割の研究」
		大倉 芳樹 埼玉・川口東中	・生きる力をはぐくむ修学旅行 －体験学習を通して自分の将来・地域を見つめる旅－
		桜井 信雄 埼玉・埼玉中	・過去・現在・未来、そして自分を見つめる修学旅行 －総合的な学習の時間とリンクした実践的な取り組みを通して－

回	年度	発表者 県・学校名 ◎講師	研究内容・講演内容
44	20	<ホテルレイクビュー水戸>	主題 「感動ある修学旅行の実現」
		飯野 兼一 茨城・水戸五中	・学級団結をねらいとした旅行的行事の実施
		鈴木由香子 茨城・内原中	・結束力を高め、個が生きる修学旅行のあり方 －絆を深める体験活動を取り入れた自分発見の旅－
45	21	<小山市文化センター>	主題 「感性をはぐくむ修学旅行の探究」
		戸倉 文夫 栃木・上三川中	・世界遺産の地で感性を磨く修学旅行のあり方
		仁平 和希 ”	－クラス別茶会(京都・奈良)と献茶式(春日大社)をとおして－
		飯塚 雅美 栃木・佐野西中	・心に響く修学旅行のあり方
		元田 勝章 ”	－平和への想いを歌声にのせて IN 広島－

表紙写真：能の体験（前橋市立第五中学校）

第46回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会紀要

平成22年11月15日

発行 関東地区公立中学校修学旅行委員会  
財団法人 全国修学旅行研究協会  
[事務局] 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-6-8  
TEL 03-5275-6651 FAX 03-5275-6653  
E-mail shuryo@h2.dion.ne.jp  
URL <http://shugakuryoko.com>